

子どもの事故で多い窒息と対処法

のどにものがつまったときについて

食事のときに、食べ物がうまく飲み込めないと、のどにつまらせてしまうことがあります。1歳半ごろまでの乳幼児はものを飲み込む機能が未発達なうえ、大人のように食べ物をかんだりすりつぶしたりすることができないため、のどにものをつまらせてしまうことがあります。また、子どもの口の大きさは直径3~4cmくらいなので、これより小さいものは食べ物以外の異物でも口の中にいれてしまいます。食べ物や異物を飲み込んで、のどにつまってしまったときには、窒息となり、命にかかわる場合もあります。

のどにつまったときの症状は？

- 口に指を入れる、のどを押さえる
- 声を出せない
- 窒息により、呼吸が苦しそう
- 顔色が悪くなる



気をつけたい食品やものは？

- もちや団子、グミなどの粘着性の高いもの
- ブドウやミニトマトなど、球状のもの、つるつるしたもの、弾力があるもの
- 3~4cm以下のおもちゃや小さな日用品

起こってしまった時の対処法

① 1歳児未満の乳児には「胸部突き上げ法」と「背部叩打法」を数回ずつ交互に行いましょう。意識がない場合、心肺蘇生を行いながら119番通報し、救急車を呼びます。

② 意識がある1歳以上の幼児には「腹部突き上げ法」を行います。意識がない場合、心肺蘇生を行いながら119番通報し、救急車を呼びます。

病院を受診したがよいのか？

窒息後、呼吸が戻った場合でも、念のため、受診しておく心安心です。

1歳未満の乳児

胸部突き上げ法



片手で体を支え、手の平で後頭部をしっかり支えます。

心肺蘇生法の胸部圧迫と同じやりかたで圧迫しましょう。

背部叩打法



片手で体を支え、手の平であごをしっかり支えます。

もう一方の手の平の付け根で背中をしっかりと叩きましょう。

繰り返す

1歳以上の幼児

腹部突き上げ法



背後から両腕を回し、子どものみぞおちの下で片方の手を握り拳にします。

その手を腹部を上方へ圧迫しましょう。